

このひとをじっくり見ますか？

第13回

しての地位を築いた敏子ですが、出演した作品は、残念なことにも多くが戦災で失われ、鑑賞できる機会が少なくなっています。

たと言われています。

映画『世直し大明神』で共演し、世間から美男美女として人気を集めた坂東好太郎と敏子は、その後も共演を重ね、昭和十一年(一九三五年)に結婚しました。敏子は出産のため一時退社しますが、その後復帰し、『坂東好太郎一座』で舞台を中心に活躍しました。

敏子は、平成三(一九九二)年十二月十四日、七十七歳で亡くなりました。名実ともにスター女優と



▲映画『麗夜の女』(大田区立郷土博物館所蔵)左の写真の男性は共演した徳大寺伸

用語の手引き

『小津安二郎』

映画監督・脚本家。代表作の映画『東京物語』など、独特の映像世界で優れた映画作品を生み出し、国内だけでなく海外でも高い評価を受けている

『松竹下加茂三羽鳥』

当時人気の時代劇スター高田浩吉、林長二郎(長谷川一夫)、坂東好太郎の3人

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。

日本映画の第一次黄金期に活躍した深谷市ゆかりの映画女優【東京都】

飯塚敏子 いいつか としこ

(大正3年6月8日～平成3年12月14日)



▲肖像写真 (大田区立郷土博物館所蔵)

飯塚敏子は、大正三(一九一四)年六月八日に東京都で生まれ、本名は敏と言います。深谷市江原出身の父親は、東京の新橋で旅館を営んでいました。敏子は文化学院女学部に進学しますが中退し、家事手伝いをしていました。その時に、婦人・女性誌『婦人公論』の美人投票企画で当選し、昭和五(一九三〇)年、十六歳で松竹キネマ蒲田撮影所に入社しました。

翌年、日本映画界の巨匠となる小津安二郎監督の映画『淑女と髭』でデビューしました。その後、

京都にあった松竹下加茂撮影所に移籍し、時代劇女優の道を歩み始めます。敏子は、当時『松竹下加茂三羽鳥』と呼ばれ人気を集めていた時代劇スターの相手役をはじめ、映画『唐人お吉』で主演を演じるなど、女優としての地位を着実に築いていきます。

また、昭和八(一九三三)年に発行された『キネマ旬報』新年特別号に掲載された『昭和七年日本映画総評』では、文句の付けようのない好演を高く評価されました。敏子は、聡明な美しさでファンを魅了し、出演作品は日本を超え、戦前の時代劇映画を代表する女優の一人となりました。

敏子は父の実家があった深谷市江原を訪れることもあり、敏子が人力車で帰郷すると、近隣の人々は人気映画女優となった敏子の姿を一目見ようと集まってきた。

深谷市長 小島 進

まち・ひと・しごと創生総合戦略

深谷市では3月15日に『深谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略』を策定しました。

日本の人口は平成20年まで増加していましたが、この年をピークに減少に転じ、その減少スピードは今後加速度的に早まると予測されています。

また、深谷市の2060年の高齢化率は42.8%になると推計されており、人口減少だけでなく人口構造の変化に対応したまちづくり・行政経営が必要です。

そのため、『まち・ひと・しごと創生』の取り組みが必要となり、深谷市では、急激な人口減少や高

齢化の進行を抑制するには、出生率を向上させるとともに若者世代の転入促進と転出抑制を図ることが必要と考え、『次世代につながるエリア価値を創出すべき』という結論を出しました。

『次世代につながるエリア価値の創出』とは、住んでみたい、住み続けたい地域(エリア)であり続けるため、今ある暮らしやすさに磨きをかけ、産業構造に新たな価値をつくり次世代につなげていくこと、また新しいものをつくることで、深谷市の価値をより高めることにつながります。

深谷市のまち・ひと・しごと創生は、『次世代につながるエリア価値の創出』を基本方針とし、その具現化のために、『産業の価値の創出』と『暮らしの価値の創出』と2つの基本目標を定めました。

この2つの基本目標を達成するため、産業拠点整備事業や産業間連携支援事業、シティセールス推進事業、子育て世代包括支援事業など、さまざまな事業を展開し、深谷市の価値を高めていきますので、ご理解・ご協力をお願いします。

みんなの声BOX

Q 使用済小型家電の収集はどのように行われますか？

A 4月1日から、新たに使用済小型家電の収集を行います。

詳しくは、広報ふかや3月号と一緒に配布した『ごみの分け方・出し方』および『使用済小型家電』のリーフレットをご覧ください。

【収集日】

深谷地区	第2水曜日
岡部・川本・花園地区	第2金曜日

※使用済小型家電の収集日には、『燃やせないごみ』が出せません。ご注意ください。

問い合わせ 環境衛生課 ☎585-2215

ありがとうの手紙



最優秀賞

小学校低学年の部
おとうさん、おかあさんへ

八基小学校1年(現2年) 齋藤和也 さん

ぼくは、しゅじゅつをして、にゅういんすることがおかったけど、いつもおしことをやすんでついでてくれました。にゅういんは、いやだったけど、やさしくしてもらえてうれしかったです。

あと、めが、あまりよくみえないので、だんや、あぶないところがあるときは、こえをかけてもらい、いっぱいはしりまわってあそべました。いろいろなところにつれていってもらったり、やりたいことがなんでもできたりしてうれしかったです。ほんとにありがとう。